

(キャリア形成・就職支援の状況)

## ●キャリア形成・就職支援の基本方針

本学では、学生数規模、経営学専門教育、都心立地といった特性を生かしたキャリア指導を行ってきた。その基本方針は、以下の3点である。

### 1. 教育としてのキャリア支援

本学では、就職・進学活動プロセス自体を教育の一環と捉え、キャリア支援を行っている。学業と就職活動は別のものではなく、就職活動で求められる様々な能力をカリキュラムおよびキャリア支援プログラムで育むことを目指している。このことは学問を身につけるだけでなく企業社会に適応して十分に力を発揮していくための能力を磨くということであり、いわゆる職業教育を中心に教育を行うという意味ではない。すなわち本学が掲げる「実務IQ」に基づいて、キャリア教育を行い、キャリア形成を支援するということである。

その観点から、本学ではキャリア形成に関わる科目がカリキュラムに組み込まれている。社会的・職業的自立に直結するものとして、「プロフェッショナルセミナーⅦ(就職)」、「就職特講」、「基礎演習Ⅱ(キャリアデザイン)」といった科目が設置されている。また、専門科目においても、大企業で豊かな実務経験を培った講師陣による臨場感溢れる教育が展開されている。さらに、「交渉力」や「異文化理解」「インタビュー術」といった社会人として活躍できる能力(ジェネリック・スキル)を育成する授業や、経営者を招聘して直接話を伺う授業(「中小企業論」)、企業から与えられたビジネス課題を解決するプロジェクト学習などが推進されてきた。その他、「インターンシップ」、「イベント実習」、「自己開発(資格取得やボランティア)」では、学生の社会体験や資格取得の努力を単位として認定する制度を整えている。このように経営学の専門知識に加えて、「実務IQ」を高めるためのプログラムが多数用意されている。

本学では、キャリア形成に関わる教育は就職を目前とした3・4年から始めるのではなく、なるべく早期から行われるべきものと考えている。そこで、入学式直後に進路オリエンテーションを行うほか、早期からキャリア意識の形成を進める目的で、平成25(2013)年度から「基礎演習Ⅱ(キャリアデザイン)」を1年次秋学期の履修科目として開講している。令和2(2020)年12月から同科目内で「内定者報告会」を開催し、先輩の就活体験談を生の声として語ってもらう機会を提供している。ちなみにインターンシップには1年生から積極的に参加するよう促しており、学内で「東京都・きづくインターンシップ説明会」などのインターンシップ説明会を複数回行っている。

なお、毎年12月に開催される、専門ゼミの研究成果を発表する「ゼミ研究発表大会」で全員スーツ着用を義務付けているのも、学生時代からビジネスプレゼンテーションの雰囲気慣れてもらう環境づくりの一環である。

## 2. 顔の見える個別指導

本学は学生数 1,000 人程度の小規模大学であることから、それを利点と考えて一人ひとりの学生と顔の見える関係を構築し、きめ細かな教育を行うことを大切にしている。

初年次から卒業までの全段階で、演習形式の講義を設定しており、随時「個人面談」を行うなど、学生個人の個性や興味・関心に応じた指導に努めている。

3～4年次に設置されている「専門演習(ゼミ)」は、主として専門知識を修得することを目的としているが、それにとどまらず演習担当教員による個別の進路指導・相談を行い、進路決定や卒業後に向けた準備などに関する指導を行っている。また、キャリア支援部と演習担当教員が個々の学生の状況を共有し、双方が協力して支援するよう心がけている。

専任教員は週に一度の「オフィスアワー」を設けている。学生はその時間帯に自由に研究室を訪ね、さまざまな相談ができる体制をとっており、「専門演習」の非履修学生や、他学科の学生に対しても、相談の門戸が開かれている。

キャリア支援部内で行われる個別指導は、学生の個性を配慮しつつ、書類の添削、面接練習、カウンセリング、などをきめ細かく行っている。キャリア支援部では学生が1年次から気軽に相談できるよう、なるべく開放的で親しみやすい雰囲気を作るように心がけている。ちなみに、学生の中には早期から卒業まで足繁くキャリア支援部に通う者が一定数おり、そうした学生が就職活動の中で急速に成長していくのを度々目にする。その意味でも、顔の見える関係の構築が充実した支援に繋がることを実感している。

## 3. 企業・地域と連携した社会体験の充実

企業や地域社会と連携した活動は大学外での社会体験を積むことができるものであり、キャリア形成の重要な機会と捉えている。

本学ではこれまで、「高田馬場ラーメンマップ」の制作(平成 27(2015)年度)、手塚キャラクターを活用した高田馬場地域活性化提案(平成 29(2017)年度)、地元商店街と連携した「カミサカエリア活性化プロジェクト」(平成 29(2017)年度～令和元(2019)年度)など、専門演習(ゼミ)や研究サークルの学生などに対し、近隣企業や商店街との交流を通じてソーシャルスキルを磨く機会を提供してきた。

また、企業が数多くひしめく新宿という地の利を生かした「GMT(地元)企業訪問」(平成 26(2014)年度～)は、専門演習の学生グループが近隣企業に直接インタビューして会社案内を制作するプログラムであり、平成 29(2017)年からはこれを全国 12 地域・20 大学で推進されている「志プロジェクト」へと発展させて取り組んできた。本プログラムの企画推進には、企業への依頼から発表会の実施に至るまでキャリア支援委員会・キャリア支援部が深く関わり、本学のキャリア支援を象徴する施策として実践されてきた(新型コロナ感染拡大の影響で令和 2(2020)年以降は休止)。

直近では、令和3(2021)年度より、教員と学生の有志が地元の地場産業である染色業と連携した「Shinjuku Re 和 style project」を開始し、アート展示、藍染ワークショップなどによって地域活性化に貢献する運動を行っている。この活動に関連して、染色を軸にした地元イベント「染の小道」にも積極的にボランティアを送り出し、参加学生(20名弱)は貴重な社会体験を積むことができた。学生たちはコロナ禍で活動が制限されてきたが、この活動で久しぶりに社会と繋がることの喜びを体感できた。

学生時代に企業や地域と連携した活動に取り組むことは、交流する人や体験の幅を広げることになり、その後のキャリア形成に大きく寄与すると考えられる。今後もインターンシップの充実とともに、このような活動を積極的に展開していく予定である。

## ●キャリア形成・就職支援の組織体制

### 1. キャリア支援委員会

キャリア支援委員会は、学長より指名された専任教員及びキャリア支援部職員で構成され、進路支援体制の企画検討、実施、運営、調整などを行っており、教員と職員の間で情報共有が図られている。進路支援施策の新たな取り組みは、主にこの委員会で決定される。同委員会の9名のメンバーは業務別の主幹を担当、機能分担による運営を行っている。

### 2. キャリア支援部

キャリア支援部は職員が担当し、進路登録カード及び卒業生リストの保管、求人の受付と管理(ファイリングや掲示を含む)、学内外合同企業説明会の案内、就職関係文献や関連資料、求人検索用端末などを整備するとともに、履歴書・エントリーシートの添削および模擬面接の実施、卒業生訪問の案内、個別相談・指導、学内企業説明会の企画・運営、インターンシップ説明会の実施など、個々の学生に寄り添ったきめ細かな指導を行っている。

キャリア支援部の開室時間は、平日9:00~17:00であり、キャリア支援部長(教員)含め4名(キャリアコンサルタント有資格者2名、内、非常勤1名)のスタッフで対応している。

## ●具体的な取り組み内容

### 1) 「プロフェッショナルセミナーⅦ(就職)」「就職特講」科目との連携

就職を希望する3年次生が就職活動を円滑にかつ積極的に展開できるよう、キャリアアカウンタ資格を有する教員による指導科目「プロフェッショナルセミナーⅦ(就職)」及び「就職特講」を設置している。

## 2) 学年別の進路オリエンテーション

年度始めに1~4年次生それぞれに向けた「進路オリエンテーション」を開催し、就職活動のタイムスケジュール、「インターンシップ」受講の方法、就職特講受講のすすめ、目標を持って学生生活を過ごす必要性、キャリア支援部の利用法、就職活動にあたっての留意点などを伝えることによって、学生一人ひとりに年間の目標設定、進路ビジョンを持たせるよう動機づけている。

## 3) 各種学内説明会の実施

企業を招いて合同形式で行う学内業界研究会や、エージェントの協力も得ながら毎回10社の厳選優良企業を紹介する求人紹介セミナーを実施した。また、低年次よりキャリア形成を促す目的で、東京都学生インターンシップ支援事業事務局の協力を得て、インターンシップ説明会を実施した。

令和3(2021)年度は、学内業界研究会2回、求人紹介セミナー5回、インターンシップ説明会6回を、全てオンラインで実施した。

## 4) 留学生への就職活動支援

留学生においては日本国内で就職を目指すにあたり、固有の課題や留意点が存在する。そのため、日本人学生とは別内容の説明や動機付けが必要となる。こうした問題意識から学生支援部・国際交流推進室と連携をとり、平成29(2017)年度より「留学生向け就職個別面談相談会」「就職強化支援説明会」を開催している。

また留学生数の増加にあわせ、平成29(2017)年度より留学生向けの「就職特講」クラスを設置しており、令和2(2020)年度からは「プロフェッショナルセミナーⅦ(就職)」が春学期に設置された。就職とアルバイトの違い、日本の商習慣、在留資格の説明など、日本人向けとは異なる独自プログラムで展開している。

## 5) 学生個別面談の実施

学生の就業意識や進学等の要望を早期に把握し、適切な支援ができるように、平成21(2009)年より毎年6~7月に、3年次生を対象に進路に関する個別面談を実施してきた。この面談は、専門ゼミ担当教員に担当学生の就業・進学等への希望や取り組み姿勢、資質や強み、関心事などについてヒアリングしてもらい、その結果をキャリア支援委員会がとりまとめる形で進める。面談の結果、進路に関して特別な事情や課題を有する学生や就業意識の低い学生、さらに専門演習を履修しない3年次生に対しては、キャリア支援委員会の教職員が個別面談を行うフォロー体制を敷いている。

また4年次生の専門演習非履修者、留年生、編入生に対しても、キャリア支援委員会の教職員による個別面談を進め、就職活動に向けて孤立しないよう目配せを行っている。

令和3(2021)年4月よりハローワークからキャリアカウンセラーの派遣を受け、隔

週で水曜の午後に面談を行っている（「新卒応援ハローワーク就職支援ナビゲーター相談」）。さらに令和4（2022）年1月より、履歴書・エントリーシート添削のためにキャリアカウンセラーによる個別面談を開始した（週2回午後）。

卒業対象者のうち進路未決定者に対して行う個別の進路相談会（「きやりあ・さぼ」と呼称）を例年2月に開催しているが、令和3（2021）年度はこれを前倒しして11月に行い、以降2月まで毎月開催した。キャリア支援委員会教職員が外部のキャリアカウンセラーの協力のもと、個人面談の形式で支援を行った。

#### 6) 「インターンシップ」（キャリア科目）を通じた指導

昨今のインターンシップは、企業側の採用活動をスムーズにするだけでなく、学生のキャリア教育という側面からも大きな意味を持っており、本学では、学生に早い段階から実務を経験させ、就労意識を抱かせることを目的に、平成16（2004）年度より「インターンシップ」を認定科目として導入している。

本学では単に認定するのではなく、インターンシップ説明会への参加を必要条件とし、エントリーシート作成、希望企業へのエントリー、就業体験、実習報告書の提出を義務づけ、これらを修了した学生に対してのみ、30時間の就業体験で1単位、最大4単位までが認定されるシステムをとっている。また学生の希望に応じ、エントリーシート記述時の相談や添削などの指導も行っている。

令和3（2021）年度は、インターンシップ説明会を6回開催し、合計162名の学生が参加した。そのうち5名が14社のインターンシップに参加し、5名全員が単位認定された。なお平成29（2017）年度以降は、東京都主催インターンシップ「きづくインターンシップ」への参加も促している。

#### 7) 「基礎演習Ⅱ（キャリアデザイン）」科目との連携

平成25（2013）年度より、1年次生秋学期履修科目として「基礎演習Ⅱ（キャリアデザイン）」を導入している。これは早期からキャリア意識を芽生えさせるためのプログラムであり、同科目の共有コンテンツについては、キャリア支援部スタッフが学務部スタッフ、協力会社と連携の上で企画・設計し、「SPI試験対策e-ラーニング活用講座」「自己発見・アクションプラン講座」「PROGテスト（コンピテンシー）」等を授業内で行った。

令和3（2021）年度は、226名が履修し210名が単位修得した。

#### 8) 学生向け就職関連情報の発信

令和2（2020）年度より、コロナ禍対策として、Google Classroomを利用したオンライン掲示板の運用を開始した。各学年別にクラス分けをし、本学学生を優先的に採用する意欲のある企業を中心に、求人案内や説明会、インターンシップの情報等をタイムリ

ーに提供している。

またキャリア支援部内及び周辺掲示板には、就職関連記事や時事問題の閲覧、4コマ漫画を使ったポスター、グループディスカッション入門ポスター、就職スケジュールポスター、「法人営業とは」ポスターなど、学生の興味関心を惹くコンテンツを掲示している。

#### 9) 障がいを持つ学生に対する就職支援

障がいを持つ学生に対しては、学生相談室や「専門演習」担当教員、保護者とも綿密な連携の上、個別の事情に合わせた進路支援を行っている。外部団体が主催する就職面接会などへの同行、地域若者サポートステーションの紹介、発達障がい学生への支援組織・企業との情報交換などを行ってきた。

#### 10) 卒業生からのアドバイス機会の提供

令和3(2021)年7月1日(木)・8日(木)に、「就職特講」の一環として、卒業生を招いての「OB・OGキャリア情報交流会」を開催した。本交流会は、3年生を対象に就職についてのリアルなイメージをつかんでもらい、就活への意気込みを高めてもらう目的で平成28(2016)年度より開催しており、卒業生採用企業とのパイプ強化にも繋がっている。参加した学生のレポートには、「卒業生だから聞けることがあったので良かった」「学生の目線に立って何をすれば良いのかを優しく語ってくれて嬉しかった」などといった内容のものが多く、極めて有意義な機会であったことが窺える。参加者は7月1日(木)留学生21名(履修者22名)、7月8日(木)一般127名(履修者195名)であった。

#### 11) 学生の個人情報保護の強化

これまでも学生の個人情報保護には努めてきたが、令和元(2019)年度に進路先一覧のエクセルデータや就活関連イベントの顔写真などに関する保管・廃棄方針を再整備し、デジタル時代に対応したガイドラインを作成した。令和3(2021)年度は、ガイドラインの遵守を徹底し、個人情報保護の強化を行った。

#### 12) コロナ禍におけるオンライン対策

コロナ禍において、企業ごとに異なる採用形式に対応すべく、学生が対面とオンライン両面での対応力を身につけられるよう柔軟な支援策を講じてきた。具体的には、オンライン面接が行える体制の整備、オンライン面接の練習、情報提供を行った。